

絵画や陶芸力作214点

日立 立 定時通信制高校生徒が出品
19日まで

県内高校の定時制と通信制で学ぶ生徒の作品を披露する芸術展（県高校定時制通信制教育振興会主催）が19日まで、日立市幸町1丁目の日立シビックセンター1階ギャラリーで開かれている。絵画や陶芸、書など多彩な力作214点が並び、会場には、「命ってなあに？」をテーマに来場者が共同制作する大型キャンバスも設置されている。

芸術展は、定時制と通信制の生徒に独自の発表する場を提供するため2008年に始まった。会場は県内各地を持ち回りで開かれており、14回目。日立市では2回目となる。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で直前に中止を余儀なくされ、誌上展の扱いだった。

出品しているのは県内定時制、通信制17校のうち16校。個人作品を中心にグループで制作したケースもあり、214人が参加している。今回ただ1人の成人は太田一高1年の鈴木勝美さん(72)で、書道作品を出し



多彩な作品が並び「県高校定時制通信制芸術展」日立市幸町

形を制作した。

通信制の明秀日立高水戸キャンパスに通う1年の大貫そらさん(16)と河口青波さん(16)は手芸部に所属し、愛くるし

た。結城二高生による「ピサの斜塔」などの陶芸作品は来場者の目を引き、日立工高2年の大内翼さんは銀色のねじを組み合わせた人

うれしい」と声をそろえた。会場の入り口近くには大型キャンバスが置かれ、来場者がその時に思い浮かべた「命」のイメージを自由に描き込み、1枚の絵画に仕上げるコーナーが設けられている。

振興会の会長で画家の山崎理恵子さんは「子どもたちは作品に向かう中で自分

の気持ちを発散させることができる」と同展の意義を強調。その上で「一つ一つの作品に心を寄せ、何を表現したいか想像しながら見てほしい」と来場を呼び掛けている。

同展は入場無料。午前9時から午後5時まで（最終日の19日は午後3時まで）。

（川崎勉）